令和５年度　第３回　三次市教育振興計画策定懇話会

開催日時：令和６年１月 17 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分
開催場所：三次市役所本館６階６０２会議室
出席委員：朝倉委員長、杉原副委員長、水越委員、藤川委員、杉本委員、高田委員、出口委員、森川委員、岡崎委員、三上委員、小川委員、佐藤委員、松尾委員、宍戸委員、鳥居委員、長尾委員、錦織委員　　欠席：浦田委員
事務局：信田（司会）　迫田教育長　宮脇次長、藤本課長

開会
（進行：委員長）
報告事項(事務局)
・第２回三次市教育振興基本計画策定懇話会論点整理について(資料１、資料２)
・学習や生活についてのアンケート調査結果(市民・保護者版)について(資料６)
・(仮称)三次市教育大綱及び三次市教育振興基本計画の素案について(資料３)

協議（素案についての議論）
〇欠席委員(事前提出された意見について事務局代読)
・「社会情勢の変化」の「(2) 価値観の多様化と Well-being の向上」のうち、「～納得解を生み出すことなどが一層強く求められている～」の箇所について、教育の現状と課題について触れているので、「～生み出すことなど～」という表現よりも「～生み出す力がより一層～」という表記がよいのではないか。
・「～日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイング～」の箇所について、「日本社会に根差したウェルビーイング」がひとまとまりであると思うので、あえて、「調和と協調」を入れなくてもよいのではないか。
・「(3)超スマート社会の到来と対応」のうち、「～学校教育の在り方や教職員の業務の変革～」について、「～学校教育や生涯教育などの在り方やその業務の変革～」など教育全体を取り込む文章にしてはどうか。
・「(4)持続可能な社会の実現」のうち、「～子どもたちが，地球規模の課題について理解を深め～」の箇所について、子どもたちだけではなく、広がりを持たせる意味合いと、「自然豊かな三次市」を入れたいことから、「～子どもたちが、地域とともになって自然豊かな三次市への愛着を高めると同時に，地球規模の課題について理解を深め～」を提案する。
・「基本方針２豊かな心と生きがい」のうち、「子どもたちがスポーツや文化活動に親しむ機会の創出」の箇所について、三次市子ども未来応援宣言には、「【子どもたちの可能性を伸ばします】　～自然の中での実体験や文化体験を乳幼児から重視～」とあり，反映してもらいたい。
〇委員長
　今回作成している素案は、前回までの懇話会での各委員の意見を踏まえて内容を整理していただいている。
社会が変わっていて、災害など、多発している。事件や事故も起こっている。これからの社会を

子どもたちが生きていくという緊張感をもって受け止める必要があると考える。緊張感をもって受けとめている。
この計画を10年間守り続けて計画通り進めることも大事だが、随時見直しながらマネジメントして社会情勢、見通しを踏まえて運用ができればよいと考えている。
〇委員
「基本方針2豊かな心と生きがい」のうち、スポーツの箇所について、スポーツの表現は、競技スポーツのイメージがあるが、ここは生涯スポーツと考えられる。生涯スポーツという表現であれば、苦手な人も含めて間口が広がり、取り組む人が広がるのではないかと思う。スポーツは子どもだけではなく、大人も含めてどの世代も関わることができるので、イメージを柔らかくしてもらうほうがいい。
〇委員
正月早々（能登半島）地震があり、（現地では）子ども達が学校にいけず、避難生活が大変な状態が続いている。災害がいつ起きるかどこで起きるかわからない。それに備えて、日ごろの地域の皆さんとのかかわり、いざいう時には、子どもたちのことも考えておかないといけないと、ニュースを見ながら思った。子どもたちの守り方も必要で、新たな課題として、また、地域と小中学生とのかかわりをしっかりしていけるといいと思った。
〇委員
・　震災などで、子ども達が（自分たちで必要な）火を起こせるかというと、火を起こせない。自分たちはキャンプファイヤーで経験したが、そのような経験の場が減っている。どうやって生きていくか、体験をさせていくことは人生の術になる。そのような体験を親と一緒にできる場を設けること、小さいうちからやることが必要ではないか。
・　学力は自分がやりたいことが決まると勉強はすると思うが、これからは生き方、かかわり方を小さい時から培っていけるような強い人間力と、それにかかわる大人教育が必要ではないか。学力アップのみではなく、このようなことをカリュキュラムに入れた人づくりが三次市の人口につながっていくのではないかと思う。
〇委員
基本方針にあるスポーツの部分などで、心と体を育むという言葉をよく使う。この計画には、心のつながりがしっかり描かれているが、スポーツを通して、心と体を成長させていくこと、健康であるということが、心と体をつなげるという側面からいうと、その部分がやや足らないのではないか。

〇委員
「基本施策(2)多様な居場所や学びの場の創出」及び「基本施策(3)学校・家庭・地域等との連携協働」があるが、特別の支援を必要としている子どもだけでなく、心理的に敏感で、刺激に敏感な子どもが増えていると感じている。そういった子供たちは、集団への適用が難しい。
不登校の原因がさまざまあるが、兄弟姉妹が学校に行かないことに影響を受け、行かなくてもいいと解釈したり、保護者が学校への不信感を家で話すことにより、（子どもも）そのようにとらえるなど様々な要因がある。子どもの理解を進めるというよりも、保護者の認知のゆがみも見受けられ、これを公的な支援だけではなく、「学校・家庭・地域等との連携」に含めて、民間の事

業者だから気付けること、家庭に入れることもある。保護者への支援が必要になっている時代であるので、子どもの居場所づくりも地域の力を結集してできるところはあると思っている。

〇委員

・学校の不登校が大きな問題となっている。不登校の子どもにケアが必要である。いろいろな要因があるが、そこで、先生たちの業務も考えたときにそこに対応していくことは時間的にも大変だと感じる。先生の立場として、難しい面もあると思うので、第三者とかが対応できるよう考えていくことも大切ではないか。

・災害等起こることもあり、施設設備の老朽化で耐用年数が経過しているものは心配で、また、少子化などにも対応していくことが、今後必要であり、小学校・中学校の縮小に進んでいくことになると思う。保育所としても幼小の連携は必要であり、今後、取組が必要だと感じている。

・子どもが減少し、地域の活性化を食い止めるため、三次から出たことがない人が多いと三次の良さがわからないのではないか。他を見て初めて三次の良さがわかるので、いろいろな地域へのメリット・デメリットを感じ、学習なども、三次の伝統などだけでなくよそを見てというのが大事であると感じた。

〇委員長

地域のことを考えるときにグローバルでの触れ合いが大事、グローバルには地域に根差したことが大事、両方を関係づけて大事にしてほしいという内容であると受け止める。

〇委員

・教育振興基本計画なので、具体的なところまでは網羅しないだろうが、どれだけの方が、計画の内容をご覧になられる機会を持つか、参画されるかという機会を持つ必要があるのではないか。また、中学校区で展開するコミュニティ・スクールを独自のものにしていくのかが大切だと思う。

・コロナが続いているので、企業の方もダメージを受けているが、子どもたちも大きなダメージを受けている。そこは保護者も同じだろうと思うが、具体的に動いていく中で、この計画を変革していく、変えていくのは必要だと思う。

・保護者や中高のアンケート結果をもとにしていると思うが、保護者の意見を見るといじめ、不登校問題が大きく数字があがっていることを重要視しないといけない。コミュニティ・スクールの中で、多くの方に加わってもらうこと、直接子どもから話を聞くことがない大人に、湾曲した情報が伝わらないようにしてもらいたい。子どもや保護者がどんな思いかをしっかり受け止めてみんながかかわっていくこと、みんなが積極的に係わっていくシステムをコミュニティ・スクールで作っていき、次に繋がるシステムを構築していかないと持続可能につながらない。この基本計画を策定した後は、アンケートを出した皆さんにフィードバックしてもらいたい。しっかり読み込んでもらう機会を作ってもらいたい。

〇委員長

コロナの影響は子どもたちに大きなダメージを与えているという意見については同感である。

〇委員

・「(4)魅力ある教育環境の整備・充実」のうち、「育ち」という言葉は、育ち=成長ということだろうが、内容の誤解を招く可能性があるのではないかと思う。

・「～学びの継続と発展・高度化という視点から，幼保・高校・大学等との連携・接続～」の箇所でコミュニティ連携が、さらっと書かれすぎていると思う。連携をとるために、どのような教育にかかわっていきたいかをもう少し深く、明確にしていってはどうだろうか。大学との連携をとることにより自分の就職の幅が広がり、進路での学びの方向性が定まるのではないか。大学高校小中との連携が必要なので、深い意味で文章的に書いてもらえるとわかりよいのではないか。
・教職員の働き方改革の推進では、この文章表現だと単に労働時間のことを連想してしまう。
〇委員長
　策定のプロセスでは、言葉が独り歩きしてしまうことがあるので、言葉を確認しておくことは大事である。育ちは成長という意味でよいか。ここまでの意見で事務局として説明することがあれば発言をお願いする。
⇒(事務局)
「育ち」は成長という意味である。表現の検討をする。
「幼保・高校・大学等との連携・接続」の箇所については内容を整理する。
「教職員の働き方改革」の箇所については、できるだけ教職員は子どもたちと向き合っていくという意味である。文字レベルでの検討をする。
〇委員
　小学校に勤務しているが、いろいろな話を聞いていると学校に求められているものが大きく変わっていると実感している。学力もテストの点ではなく、子ども達の未来につながる力につながるようにしたい。子どもが多様で、保護者も様々な意見を持っており、これまで通りの進め方では解決しないと実感している。学校だけでは解決できないことがあり、地域全体、市全体で子どもを育てるよう意識が伝わるといいと思う。また、学校の中も意識を変えていかないといけない。
　コロナ後，学校で初めて保育所交流に行った。５年生の子どもが保育所に行って、体験が大切だとの学びを実感した。学校の職員も元気がでるといい、同じ方向を見る指針になるといい。
〇委員
　「多様な居場所や学びの場の創出」においては、いじめ問題が取り上げられている。学校へ行きたいというところで重要だと思うので、もう一つ指標を設けることはできないか。工夫をお願いしたい。
〇委員長
　多角的に検討できるので指標をもう一つ増やすことも検討してはどうか。
〇副委員長
　今日の意見を聞いて子どもたちの安全をどうするかという点が大きい。指標を増やすとの意見があったが、それも安全安心につながると思う。
自身の経験でいうと、西日本豪雨災害の時に、学校のすぐ前の川があふれ床上浸水となった。子どもたちの安全でさえ厳しい状況、力になってもらったのがコミュニティ・スクールであり、地域の力はすごいと実感した。自分の家も被災しているのに駆けつけてくれ、体制作りは大事と感じた。今回の基本計画にもコミュニティ・スクールの充実があり、子ども達の居場所、不登校の子どもたちの「どこともつながっていない子どもをゼロ」にというのも目標として考えられる。

コミュニティ・スクールを継続していくことが重要と考えると、様々な意見を、常に出し協議するという環境をどのよう作るのかがコミュニティ・スクールの肝と考えている。そのような取組につながる内容になればいいと思った。

〇委員

・高校の校長をしている。高校の立場から、この計画はいいものができていると感じた。非常にわかりやすいと思う。基本計画を作るのが目的ではなく、いかに活用するかが目的で、市民に理解いただき、それぞれの立場で三次市の教育にかかわってもらう。その趣旨が伝わり、分かりやすくまとまっていると思う。

・広島市の高等学校の例でいうと、東広島市、江田島市からも通学している。三次市では、地域の方が応援する。学校教育だけの力だけでは難しい。

・三次市に来てまだ２年であるが、教育長に挨拶をして、大綱、計画をいただき、青陵高校は地域から何を期待されているのか、我々は何をすべきかを考えた。市内に高校が３校あり、それぞれ役割がある。そこで基本計画をみて、地域にお願いをして経営などの講話をしていただいたり、市から国際交流で援助をいただいたりと、これが地域であると感じた。また、同窓会なども応援してくれる。これが三次市の大きな強みである。この計画も三次市らしさがでればいいのではないか。それをもとに地域の方が、それぞれの立場で子どもたちの教育に携わっていくのかが共通認識となればいいのではなかと思う。そして、生涯教育などを矛盾なくつなげてもらえればいいのではないか。

〇委員

（三次に住むようになって）まだ２年で状況がわからないが、いじめや登校拒否などの受け入れなどの体制はどうなっているのか。

⇒（事務局）

不登校児童生徒の受け入れは、教育委員会で設置している教育支援ルームにスタッフ４名がいて、毎日通っている子どもいる。またこれとは別に、市内の中学２校に専任の教員を付けてＳＳＲ（スペシャルサポートルーム）を設置しており、そこで過ごしている子もいる。さらに、これらとは別の学校では、教員の専任はいないが別室で過ごしている子もいる。また、広島県が設置しているスクールエスがオンラインでかかわっている。また、民間のフリースクールもある。

〇委員

自由に学校を選べるというのがあったので、市に不登校等受入れに特化した学校があれば、もっと先々明るいものがあるのではないかと思い質問をした。

⇒（事務局）

市民アンケートの中にあるが、不登校特例校も検討できれば良いと考えている。

〇委員

基本計画案については、学校が取り組んでいること、取り込んでいこうとしていくことは網羅されていると思うので、特に意見はない。指標については、すべてが網羅されているかはわからないが、必要な項目はあるのではないかと思う。

多様な人とのかかわり、人とのつながりが非常にウェイトを占めているのではないか。本校でもコミュニティ・スクールを導入する段階ではあるが、これも学校や協議会だけでは学校運営協議会と同じになるので、基本計画について研修をして、地域の中の学校づくりとして、コミュニ

ティ・スクールの存在意義を見いだしたいと思っている。学校、子どもたちにかかわってもらう人、それにより人をつくることや、多様な人とかかわることで子ども達は成長をしていくのではないかと思う。そういったなか、ゲストティーチャーとして入ってもらうために、カリキュラムの改善が必要だと思う。本計画は、これを共有化して多くの人を増やして、子どもたちの教育に役立てるためには、いい指針だと思う。

〇委員

基本理念にある「三次市に住み続けたい」が理想である。進学などや人口減少で難しいと思うが、三次市に戻てきたいまちづくりを進めてもらいたい。

魅力あるまちをどう伝えるかが必要だが、学校行事、伝統文化を体で覚えることにより、三次市から出たときに戻りたい、また、参加したいとなるように発信できればよい。学校で取り組むのも難しいと思うが、地域に根付いたものに力を入れて、体験することで違うと思う。頭で感じることと体で感じるのとは違うと思う。このような取組もしっかり進めてもらいたい。

〇委員長

素案は全体として適当である。

以下５点にまとめる。

・「子どもたちをみんなで育てる」。私たちもみんなで育つ。地域、コミュニティ・スクール、支えあうこと、三次市らしさを大事にしたい。

・「体験、実感」。学びの本質として大事。多様な人々との出会いもあるので、一層大切にしたい。

・「身体、スポーツ」。競技スポーツだけではなく、生涯スポーツの観点から誰もが、成長できる身体と考えていきたい。

・「子ども達の学習環境の整備」。安全安心、ハード面、ソフト面の整備。

・「計画をどう学校や地域、市民などで広め、運用、参画していくのかが大事」。アンケートとのつながりを示していくことが大事であり、本計画を分かりやすい形で説明することも大事で、子ども達だけでなく大人の学びにつながる運用になればという意見があった。

これらを副委員長と整理し、意見書として教育委員会へ報告したい。

⇒異議なし

〇副委員長挨拶

〇閉会の挨拶（迫田教育長）

４．その他

・最終案　２月中旬からパブリックコメント

・意見書は委員に共有

５．閉会

以上